

<金標準、「もう」はまだなり、「まだ」はもうなり・・・>



(出所：オアシス)

週末にイスラエルがイラン第3の都市イスファハンを攻撃したとの報道から、核施設が存在する都市であった事から一時地政学的なリスクの高まりを受けたが、時間と共に被害状況が軽微であり、核施設は攻撃されなかった事で、原油価格や金価格といった逃避需要で買われた商品は元の水準まで戻している。また金融姿勢でもパウエルFRB議長の発言以降、FOMCメンバーや金融当局者はタカ派の発言を続けており、6月のFOMCにおける利下げ観測が完全の後退し、年3回の利下げ確率も1回の確率まで修正を余儀なくさせている。

特に金利を生まない金は、通常は金利動向と反比例する動きを見せることが定説であるが、ここしばらく米国10年債は4.5%を超えるなど金利は高止まりを見せる中で、金価格は市場最高値を試す高値追いを続けるなど、投機色を強めた値動きを続けている。ただ今週末は日銀金融政策決定会合を控え、植田日銀総裁がタカ派の姿勢を示す事が出来ると円高の動きへ変化し、高値追いが止まる可能性は残ると思われる。

<テクニカル>

金標準先物の日足のMACDでは、MACDはMACDの切り下げだし、シグナルは切り上げている。特にMACDとシグナルの乖離を示すヒストグラムが縮小しており、転換を示す動きに思える。また日足が10日移動平均線に近付き、日足が下回ると上昇基調が途絶えると思える。

このレポートはお客様への情報提供を目的としています。情報に関しては正確を期するよう最善を尽くしておりますが、内容の正確性、信憑性に関し保証をするものではありません。利用にあたっては自己責任の下で行って下さい。売買の判断はお客様御自身で行って下さい。

○商品デリバティブ取引は最初に委託者証拠金等の預託が必要で、その額は商品によって異なりますが、最高額は1枚当たり通常取引 2,445,000 円(2024 年 4 月 22 日現在)です。また、委託者証拠金は相場変動や日数の経過により追加預託が必要になることがあり、その額は商品や相場の変動によって異なります。○商品デリバティブ取引は相場の変動によって損失が生ずることがあります。また、実際の取引金額は委託者証拠金の約 10 倍から 70 倍と著しく大きいため、損失額が預託している委託者証拠金の額を上回ることがあります。○商品デリバティブ取引は委託手数料がかかり、その額は商品によって異なりますが、最高額は 1 枚あたり往復 76,560 円(2024 年 4 月 22 日現在)です。手数料額は相場変動により増減する場合があります。

当社(商品先物取引業者)の企業情報は当社本・支店及び日本商品先物取引協会で開示しています。お取引についての御相談は、当社顧客サービス担当(東京)電話 03-5540-8423 (受付時間:平日 8:30~17:30)
証券・金融商品あっせん相談センター <https://www.finmac.or.jp> 日本商品先物取引協会相談センター
<https://www.nisshokyo.or.jp>